

## 第2回日露投資フォーラム(2007年2月28日) Санктペテルブルグ市副知事 M.E.オセエフスキー

「 Санктペテルブルグでの第1回日露投資フォーラムの結論と東京へのバトンの引継ぎ」

2006年9月に Санктペテルブルグで日露投資フォーラムが開催され盛況のうちに閉会いたしました。フォーラムは Санктペテルブルグの経済活動における輝かしい出来事となりました。フォーラムには日本とロシア両国から、またヨーロッパ諸国からも総勢700名を超える参加者がありました。フォーラムの成功は、ロシア経済発展貿易省、 Санктペテルブルグ行政府、日本経済産業省、およびその他の日本の経済組織(JETRO、ROTOBO、日本経団連)の援助と努力のおかげです。心よりこれら組織と企業に感謝の意を申し上げます。

日露投資フォーラムは、両国の経済関係史上、この種の行事としては初めてのものでした。このフォーラムにより、ロシア・日本双方の貿易界、重工業界、エネルギー部門、製造業、建設業、金融業、運輸業、保険業およびその他の部門の代表者が一つになりました。日本側代表は松あきら経済産業副大臣、ロシア側代表は経済発展貿易省次官のキリル・アンドロソフ氏とヴァレンチン・マトヴィエンコ・ Санктペテルブルグ知事でした。

フォーラムは2005年11月の東京での二階経済産業大臣とG.グレフ経済発展貿易大臣との会談に基づき開催されたものです。2006年までのロシアと日本の経済関係は、特に日米、日中、日韓関係及び日本とEUとの関係に比べると、非常に低いレベルにありました(例えば、2004年の日米貿易高は1893億ドル、日中では1680億ドル、日本とEU間では1467億ドル、日韓では662億ドルだったのに対して、日本とロシアの貿易高は88億ドル以下でした)。もちろん、このような事態は両国の真の経済ポテンシャルを反映したものではありません。

昨年、我々はお互いに効果的な関係発展の可能性を探し始めることになりました。その結果、 Санктペテルブルグで日本の投資家により実施されるいくつかのプロジェクトが現れたのです。

Санктペテルブルグ行政府は、積極的に東京三菱銀行と協力しています。

黒川紀章建築事務所は、 Санктペテルブルグのクレストフスキー島の西部に新しいサッカースタジアムのデザインを積極的に準備しています。 Санктペテルブルグのクレストフスキー島西部にサッカースタジアムを建設するという独創的なプロジェクトの契約が、まさに本日「Sintez-Sui」社と黒川紀章建築事務所との間で今日結ばれる予定です。

トヨタ、日産といった日本の自動車企業が、 Санктペテルブルグの自動車産業群の発展のための基礎を築き、 Санктペテルブルグに自動車工場と自動車部品工場を建設する際の追加的なメリットを作り出しています。

我々は、日本の自動車部品製造企業が Санктペテルブルグへやってくることを期待しており、この分野において社団法人日本自動車部品工業会(JAPIA)と積極的に協力しています。

Санктペテルブルグ行政府は日本のプロジェクトに「胸をはずませながら」対応しており、日本側は特別の関心を向けておられます。特に、日本の投資家と積極的な協力のもと、工業生産への投資における補足的な税制上の特典が考案されました。

9月に開催されたフォーラムは、投資部門における二国間協力の発展およびロシアと日本の経済関係全体に刺激を与えました。最近我々は、日本企業側からのサンクトペテルブルグに対する慎重で理にかなった関心を注視しており、大変喜ばしいことだと思っています。

2006年秋にロシアと日本の投資関係拡大に関して10項目が提言されました。

- ・ ロシアと日本の投資拡大に向けた的確なビジネス環境整備の実施
- ・ 市場経済下での担当者の役割の明確化
- ・ ビジネスに対する信頼度の向上と透明性の確保
- ・ 市場アクセスの簡素化
- ・ グローバル化での外資誘致政策の強化
- ・ 地域活性化と外資誘致
- ・ 産業基盤整備の強化
- ・ 外資誘致機関設置および外資誘致のためのワンストップサービスの実施
- ・ ロシア・日本ハイテクビジネスアライアンスへの強化
- ・ 産業発展貿易省と経済産業省の協力の強化

フォーラムでは、ロシア・日本経済交流の将来において最も有望だとみなされているのは、「西側高速道路 ( Western Rapid Diameter )」とネヴァ川下のトンネルの建設、PPPフォーマットの公共利用、バイオナノテクノロジー、電気通信その他の分野であることが示されました。

開催された会議及びセミナーは、サンクトペテルブルクやロシアが日本と協力し合えるであろう6つのテーマに関するものでした。自動車製造産業、エネルギーと天然資源、インフラストラクチャーと運輸、投資と金融、テクノロジー、消費物資の卸売りと小売販売における投資についてでありました。フォーラムの参加者に最も大きな共鳴を呼び起こしたのは、サンクトペテルブルクにおける自動車製造分野一連の開発に関する問題ですが、ここ数年にわたってロシアでは自動車の販売台数が急激に伸びているので驚くべきことではありません。会談では、国家支援、インフラ建設や工場へ延びる道路の建設、税金の引下げ、人材育成といった自動車産業への外国企業の出資に関する問題についても触れられました。また、日本側参加者の注意を特に引いたのはロシアのエネルギーと天然資源に関する問題でした。

投資プロジェクトへの資金提供をテーマにした円卓会議の席上では、ロシア政府金融機関側より主に政府の金融システムに関する報告が行われました。ブネシュエコノムバンクの代表者側からは「ロシア調査銀行」(資本金30億ドル)の設立構想があり、現在では、ロシアの各銀行は長期にわたる大規模なインフラプロジェクトの財政的支援分野で協調するようになったとの声明を発表しました。

ハイテクノロジーに関する円卓会議では、当該分野における教育産業プロジェクト形成の可能性について話し合いが行われました。最近、ロシアでは教育産業分野における研究・調査の成功が顕著になっているとの話題がのびりました。

フォーラムの主催者を代表しまして、円卓会議の延期およびフォーラム開催プログラムや発言者の構成についてフォーラム開催直前に予期せぬ変更がありましたこと、また、フォーラムの行事を調整するにあたりましてロシア側に生じた不手際につきましてお詫び申し上げます。ペトロードバレットでのレセプション、エルミタージュ劇場での素晴らしいバレエ、フォーラム開催地であるサンクトペテルブルクの魅力が僅かながらもプログラムにお

ける傷を癒してくれたことでしょう。

フォーラムには約 70 名の報道関係者が出席し、フォーラムに対するロシア側の関心の高さを証明しています。マスコミでの報道の内容は概ね好意的なものでありました。

ロシアおよび日本の政府間ではこのような行事の定期的な開催について合意がなされました。

## 第2回日露投資フォーラムへの期待

1. コンサルティング機能を有する日本特殊ビジネスセンター設立に関する問題解決
2. 日露投資銀行の設立
3. 中小企業支援プログラムとその計画

既に述べさせて頂きましたとおり、高度に発展した国々からの遅れを取り戻すために、新たな技術と知識の分量と同じだけの資本が何よりもまず必要なのです。

サンクトペテルブルクの代表者として、我々の都市が軍需産業複合体を柱としたハイテクノロジーの中心地であり、ロシアのほかのどの都市と比較しても外国からの投資に対して魅力的な都市であるということをもう一度述べさせて頂きたく存じます。

現在ペテルブルクでは、都市の高速道路や洪水防止のダム建設、渋滞を一掃するための道路システム構築プロジェクトが開発の段階にきています。最近 2 年間は、IT 及びビジネス戦略に関する相談が頻繁になされています。

近い将来には、「トヨタ」や「日産」といった自動車ブランドの製造業や JT のタバコ製造産業、「日立」の高速鉄道に関連した機器製造、「NEC」の電気機器製造における大規模な投資が期待されております。

## 上記のまとめ

これまでの業績を評価し、将来を見据えながら次のことを念頭においています。

- サンクトペテルブルクにある技術導入に関連した経済特区の可能性に対する日本のハイテク企業の関心。活発にそれらは発展を遂げています。
- 中小企業のサンクトペテルブルクへの誘致
- 高品質な日本製品のサンクトペテルブルク市場への進出
- ロシアと日本における観光促進、日本へのサンクトペテルブルク進出（サンクトペテルブルクへの日本進出）に関する広告の提案
- 東京 - サンクトペテルブルクを結ぶ直行便の導入（現在、日本からの観光客数は年間 25000 人以下ですが、サンクトペテルブルク - 東京間を結ぶ航空機直行便の開通が計画されています。これにより、サンクトペテルブルクと東京間における協調関係を一層改善していくことになるでしょう。）

では、「日露ビジネス連合」形成のためのバトンを東京にお渡しすることにします。